

記者発表（資料配付）				
月日 （曜日）	担当課・係	電 話	発 表 者	その他の発表 資料配付先
4月11日 （木）	社会教育課 施設・管理班	078-362-9434	課長 齊藤 眞 （副課長 入江 かほり）	—
	文化財課 文化財班	078-362-3783 078-362-3784	課長 山下 史朗 （副課長 甲斐 昭光）	

## 2019年度県立美術館・博物館展覧会等計画について

- 1 県 立 美 術 館
- 2 県立人と自然の博物館
- 3 県立歴史博物館
- 4 県立考古博物館
- 5 県立考古博物館加西分館

# 2019年度 県立美術館展覧会等計画

区分	2019年									2020年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別展	<b>没後130年 河鍋暁斎</b> 4月6日(土)～5月19日(日) (39日間) 幕末から明治前半にかけて活躍した河鍋暁斎(1831-1889)の没後130年を記念して開催します。当時の文化的ネットワークや交流をもとに、暁斎は屏風、掛軸、絵馬、引き幕といった多彩な作品世界を生み出しました。暁斎が手がけた錦絵、挿絵本、工芸品、さらには下絵や写生もあわせて、およそ200点を展示します。鬼才暁斎の魅力と才能の全貌に迫るまたとない機会です。 【主な出品作品】 ・河鍋暁斎「九尾の狐図屏風」等		<b>印象派からその先へ 一世界に誇る吉野石膏コレクション</b> 6月1日(土)～7月21日(日) (44日間) 山形県発祥の大手建材メーカーが1970年代から美術作品を収集し形成した吉野石膏コレクションは、今では国内有数の質と量を誇るまでに成長しました。本展ではそのうち19-20世紀フランス近代絵画を中心に展覧します。モネ、ルノワールに印象派をはじめ、シャガールなどエコール・ド・パリの作家を含め約70点の珠玉の作品が紡ぎ出す魅惑的なコレクションにどうぞご期待ください。 【主な出品作品】 ・ヒール・オーギュスト・ルノワール「幼年期(ジャック・ガリマルの肖像)」等		<b>ICOM京都大会開催記念 山村コレクション展(仮題)</b> 8月3日(土)～9月29日(日) (50日間) 西宮市に在住された企業家、山村徳太郎氏(1926-1986)が収集し、1987年に当館に一括収蔵された現代美術の作品集「山村コレクション」。「アブストラクトと人間くさい前衛のはざま」をテーマに、1950年代から80年代にかけて集められ、現在では国際的に評価の高い作品も多数含まれるこのコレクションを、約20年ぶりに一挙公開します。 【主な出品作品】 ・斎藤義重「ベンチ」 ・元永定正「タビエ氏」等		<b>富野由悠季の世界</b> 10月12日(土)～12月22日(日) (62日間) 「鉄腕アトム」の演出でアニメ界にデビューし、「機動戦士ガンダム」、「ガンダム Gのレコンギスタ」などのガンダムシリーズ、「伝説巨神イデオン」、「聖戦士ダンバイン」といった数多くのオリジナルアニメーションの総監督を務め、国内外のアニメーションに多大な影響を与えてきた、富野由悠季監督(1941-)のこれまでの仕事を回顧、検証する初の展覧会です。日本のアニメ界をけん引し全世代にファンを持つ富野監督作品の魅力をお余すところなく紹介します。			<b>ゴッホ展(仮題)</b> 1月25日(土)～3月29日(日) (56日間) 画家を志してから約10年の間に、ゴッホ(1853-1890)は過去の巨匠たちの作品に加え、同時代の芸術家からも熱心に学びました。本展では、ゴッホに自然に倣って描くことを手ほどきしたハーグ派の画家たち、また、その後鮮やかな色彩の効果を伝えた印象派の画家たちを取り上げ、それらの影響を受けながら、ゴッホが独自の様式をどのように形成していったかをご紹介します。 【主な出品作品】 ・フィンセント・ファン・ゴッホ「糸杉」等		
	展覧会	<b>境界のむこう</b> 3月16日(土)～6月23日(日)(87日間) 私たちのまわりにはさまざまな境界が存在するようです。それは、ときに乗り越えることが困難であり、ときにその線引きによって守られているものもあるのではないのでしょうか。作品に表現されている境界を通して、自分があるこちら側と、むこうにある世界を見つめることを試みます。 ・第2展示棟(Ando Gallery)開館セレモニー 5月22日(水) ※一般公開は5月23日(木)～		<b>小企画:美術の中のかたち 一手で見る造形 八田豊展(仮題)</b> <b>特集1:新収蔵作品展(仮題)</b> <b>特集2:没後80年 村上華岳(仮題)</b> 7月6日(土)～11月10日(日)(110日間) 小企画は、毎年恒例の作品に触れることのできる展覧会。30回目の今年は、八田豊(1930-)の作品をご紹介します。1990年代に作家が着手した「流れ」シリーズは、指先から伝わる感覚のみを頼りに、細かく割いた楮等を平面に貼りつけた作品です。目にも美しいこれらの作品に触れることで、風景をせひ追体験してみてください。 特集1では、平成30年度の新収蔵作品を展示するとともに、特別展「山村コレクション展」の開催にあわせ、その関連作品を紹介します。 特集2では、兵庫県ゆかりの日本画家、村上華岳(1888-1939)の没後80年を記念し、当館所蔵の作品を通してその画業を回顧します。			<b>小企画:塩売りのトランク(仮題)</b> <b>特集:再考?最高?</b> <b>一世界に誇れるか!? 兵庫県美コレクション(仮題)</b> 11月23日(土・祝)～3月1日(日)(76日間) 小企画では、マルセル・デュシャン(1887-1968)による《トランクの中の箱》は、彼自身の主要作品のミニチュアや写真複製等で構成されています。革製のトランクに全ての要素を収納することができ、「持ち運びできる小さな美術館」(デュシャン)として作られています。このデュシャンの言葉を文字通り受け取るひとつの方法として、本企画では作品中の個々の要素の提示を試みます。 特集では、全国2番目の公立近代美術館として1970年10月に開館した兵庫県立近代美術館を前身に、当館は現在地に移転・館名変更後も引き続きコレクションの充実に努めてきました。本展では約50年にわたり築きあげてきた当館コレクションを、その収集方針や果たしてきた役割といった点から再考し、「コレクション最高!」と思える機会にしたい、どうぞご期待ください。					
		ギャラリー棟の催し等	<b>共催展 不思議の国のアリス展</b> 3月16日(土)～5月26日(日) 本展は「不思議の国のアリス」の原点や、現代に至るまで様々な分野に影響を与え続けるこの物語の魅力と、日本初公開を含む貴重な作品とともに紹介します。		<b>2019県展</b> 8月3日(土)～8月24日(土) 会場:原田の森ギャラリー 本館2階大展示室 県内で美術制作に励む方々の発表の場としての公募展。		<b>共催展 日本・ポーランド国交樹立100周年記念 サンテレビ開局50周年記念 シヨパンー200年の肖像</b> 10月12日(土)～12月1日(日) 今も世界中で愛され続ける、ポーランド出身の作曲家シヨパン(1810-49)の人生と音楽を、多彩な美術作品と直筆の楽譜や手紙などの貴重な資料とともに紹介する展覧会です。		<b>注目作家紹介プログラム ーチャンネル10ー 入江早耶展(仮題)</b> 11月23日(土・祝)～12月22日(日) 現在活躍中の作家を紹介するシリーズの第10回として、入江早耶(1983-)の個展を開催します。日常に流通している二次元のイメージを立体化したユニークな作品で知られる入江氏の新作を展示します。			
イベント等	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンサート</li> <li>映画会</li> <li>「KEN-Vi文化セミナー」</li> <li>子ども向けプログラム</li> <li>美術講座</li> </ul> 館内の様々なスペースを活用したコンサート 「KEN-Vi名画サロン」「県美シネマクラシック」等の映画上映会 県内外の著名な文化人を講師に招いたセミナー 小中学生を対象とするワークショップ「子どものイベント」や解説会やおやこ絵画大会等 日本画、洋画など作品づくりの実技講座											

## 2019年度 県立人と自然の博物館展覧会等計画

区分	2019年									2020年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
企画展等	<b>ミニ企画展 ひとく研究員展2019</b> 2月9日(土)～4月21日(日) (72日間)			<b>コレクション展 石ころズラリ ～美しい鉱物から珍しい岩石まで～</b> 7月13日(土)～9月29日(日) (79日間) ひとくには、日本各地・世界各地で採取された岩石や鉱物の標本が多数収蔵されています。 今回は、宝石になる美しい鉱物の結晶や、閉山した鉱山でかつて採掘されていた鉱石、地球の歴史を語るのに欠かせない珍しい岩石など、普段はまとめて見る機会のないコレクションをズラリと展示します。				<b>展示特別企画 ひょうごのレッドリスト展 ～哺乳類・爬虫類・両生類・魚類～</b> 10月12日(土)～1月5日(日) (86日間) 兵庫県では、絶滅の危機に瀕する野生生物などをリストにまとめています。2017年には、そのうち哺乳類、爬虫類、両生類、魚類、クモ類のリストが改訂されました。 本企画では、これらのうち哺乳類、爬虫類、両生類、魚類に焦点を当て、標本や写真を使ってご紹介します。 いくつかの種については、生体(生きた個体)の展示も予定しています。				<b>ミニ企画展 ひとく研究員展2020</b> 2月11日(火)～4月12日(日) (62日間) 博物館研究員が日々行っている研究、最新動向を紹介し、調査・研究することの面白さを伝えます。	
	<b>ミニ企画展：六甲山のキノコ展2019</b> 2月11日(月)～5月31日(金) (110日間)			<b>三田市小・中学校理科作品展</b> 9月21日(土)～10月8日(火) (18日間)									
イベント等	<b>Kidsサンデー</b> 毎月(2月除く)第1日曜日に小さな子ども達にも楽しめる自然・環境に関するさまざまなプログラムを実施しています。												
	<b>標本のミカタ ～コレクションから新しい発見を生み出す～</b> 「ひとく」には、動物・植物・化石・鉱物・古写真など、さまざまな標本が収められています。 「標本のミカタ」では、普段は収蔵庫に収められているこのような貴重な標本を公開します。 標本について研究員の説明があったり、顕微鏡で観察したり、実際に触ってみたり...。標本のミカタ(見方)がきっと変わります！ 当日は関連のイベントもあります。 <5月: スミレの世界> <6月: 川虫の世界> <7月: 干潟のカニ大集合> <8月: 地球のカケラから何がわかる？> <9月: 化石レプリカでたどる象の進化> <10月: いろんなキノコとコケを見てみよう> <11月: タンガニイカ湖シクリッドの世界> <12月: 古地図ですごろく>												
	<b>ひとくキャラバン &amp; 移動博物館車「ゆめはく」～地域における生涯学習の展開～</b> 移動博物館車「ゆめはく」により、様々な地域・施設で展示・セミナー・体験型プログラム等を実施し、多くの学習機会を提供するとともに、地域における生涯学習支援、地域づくりを推進する担い手の育成を支援しています。												
セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般セミナー(通年)：地球科学、植物、昆虫、動物と生態系、環境と地域づくり等、専門的な学習ができるセミナー (事前申込必要)</li> <li>・特注セミナー(通年)：来館する学校等の団体に対して、要望に応じて実施するセミナー (事前申込必要)</li> <li>・オープンセミナー(通年)：季節や時期に合わせた工作や観察等、気軽に参加できるセミナー (事前申込不要)</li> <li>・教職員・指導者セミナー(夏季休業中)：教師を対象に、学校や指導の場で役立つ知識や技術が学べるセミナー (事前申込必要)</li> </ul>												
常設展	テーマ	兵庫の自然誌	人と自然	ナチュラルリストの幻郷	丹波の恐竜化石	水生生物の世界	ひとく多様性フロア	地球・生命と大地	共生の森				
	内容	兵庫県の特色ある自然と生きものを紹介	人と自然の関係の変遷、自然からの警鐘について解説	博物館に寄せられた多数のコレクションの一部を展示し紹介	丹波市山南町で発掘されている大型植物食恐竜等の化石を展示	海や河川の生物たちの食物連鎖について紹介	貴重な収蔵標本資料や精巧な模型を展示するほか、これら資料を活用したセミナーを随時実施	生命誕生から人類出現、日本列島の生き立ちや森林の多様性を紹介	多くの標本を活用し、熱帯雨林を再現して紹介				
<b>ひとく恐竜ラボ</b> 化石クリーニング展示施設「ひとく恐竜ラボ」にて発掘後のクリーニング作業の様子を公開													

## 2019年度 県立歴史博物館展覧会等計画

区分	2019年									2020年																						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																				
特別展・特別企画展	<p style="text-align: center;">【特別展】 <b>五大浮世絵師展</b> —歌麿・写楽・北斎・広重・国芳— 4月20日(土)～6月16日(日)</p> <p>成熟した女性の色香を女性像に写した美人画を描き一世を風靡した喜多川歌麿。繊細な感覚と写実を踏まえた強度なデフォルメで役者の演技の一瞬を劇的に捉えて、象徴化した役者絵を発表した正体不明の東洲斎写楽。風景画の葛飾北斎と歌川広重など様々なジャンルで人気を博した4大スターに、奇想天外なアイデアや確実なデッサン力を兼ね備えた歌川国芳を新たに加え浮世絵の頂点を極めた5人の絵師の展覧会を開催します。</p> <p>【主な展示資料】 ・歌川国芳「相馬の古内裏」1845-46年／個人蔵 ・喜多川歌麿「教訓親の目鑑 俗二云 ばくれん」1802年頃／個人蔵</p>			<p style="text-align: center;">【特別企画展】 <b>へんがおの世界</b> —笑う門には福来たる！— 7月13日(土)～9月1日(日)</p> <p>美術作品に描かれている「顔」には、その時代の特色が表れています。仏画の亡者や鬼、浮世絵の役者など、「顔」に焦点を当てるだけでも歴史の流れを感じ取ることができます。さらに、「表情」に着目すると、そこには多様な表現によって感情が描き込まれています。</p> <p>本展では、「変顔」をテーマに入江コレクションを中心とした館蔵品を紹介します。「変顔」とは見た人を笑わせるような、おかしい表情をつくることを言います。現代の私たちが見るとどこかおかしな、笑ってしまう表情をしているヒト・妖怪・キャラクターを取り上げ、「顔」の表現の歴史を通して、表現豊かな日本美術の新たな一面を見ていきます。</p> <p>【主な展示資料】 ・しん板福わらい 幕末／当館蔵(入江コレクション) ・葛飾北斎「北斎漫画」江戸時代／当館蔵</p>			<p style="text-align: center;">【特別展】 <b>お城ができる前の姫路</b> 10月5日(土)～11月24日(日)</p> <p>江戸時代の初めに現在の姫路城ができるより前、姫路はどのようなところだったのでしょうか。姫路市街地やその周辺には、古代以来の系譜を引く寺社が数多くあり、豊かな中世の文化財が伝えられています。また、浜手や山手の各地域にも、数多くの中世の文化財が伝えられてきています。この展覧会では、姫路に伝わる豊かな文化財から、中世姫路の姿をご紹介します。お城だけではない姫路の魅力を再発見していただく機会となれば幸いです。</p> <p>【主な展示資料】 ・兵庫県指定文化財 播磨国総社三ツ山祭礼図屏風 江戸時代／当館蔵 ・兵庫県指定文化財 菩薩坐像／南宋法恩寺蔵、当館寄託</p>			<p style="text-align: center;">【特別企画展】 <b>スケッチでたどる兵庫の建築と景観</b> 1月25日(土)～3月22日(日)</p> <p>兵庫県は約150年前に成立し、その県域は明治9年(1876)にほぼ現在の形になりました。本展では、兵庫五国に建てられた建物や、古い景観を描いたスケッチを展示します。スケッチの作者は、姫路を中心に兵庫の古民家や町並みなどを水彩や油彩などで描いた内海敏夫(1918-2010)と、近代建築、産業遺産や景観などを単色のペン画で描いた沢田伸(1948-)。それぞれの作品をとおして、兵庫五国の近代の姿をたどるとともに、古き良き兵庫の風景をお楽しみいただきたいと思ひます。</p> <p>【主な展示資料】 ・内海敏夫「国鉄姫路駅」／当館蔵 ・沢田伸「兵庫県立大学講堂(旧姫路高等学校講堂)」／個人蔵</p>																						
歴史工房	1階展示室(歴史工房)において館蔵品をテーマに沿って展示予定 春(4～6月):新収蔵資料ほか 夏(7～9月):古文書／仏像 秋(10～12月):やきもの／歴史史料 冬(1～3月):城郭関連資料／絵画																															
イベント等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史講演会: 大学や他の博物館の講師による研究成果発表の講演会(年4回)</li> <li>・れきはくアカデミー: 歴史博物館の学芸員による専門研究の発表(年7回)</li> <li>・連続歴史講座: 歴史博物館の学芸員による連続講座(年2講座5回)</li> <li>・地域講演会: 「県内地域史の諸相をさぐるⅡ」をテーマに地域の歴史を見つめてきた方が語る講演会(年3回)</li> <li>・歴史の旅: 学芸員が歴史の舞台を案内(年2回)</li> <li>・いきいきトライアル: 講師と一緒にものづくりに挑戦(年3回)</li> <li>・教員セミナー: 歴史博物館が提案する学校向け博物館活用術(8/6(火))</li> </ul>																															
常設展	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">ひょうごのあゆみ</th> <th style="width: 20%;">ひょうごライブラリー</th> <th style="width: 20%;">パーチャル歴史工房</th> <th style="width: 20%;">みんなの家</th> <th style="width: 20%;">歴史工房</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「国宝建築探訪」「源平合戦」など、兵庫の歴史の大きな流れを発見していくテーマ展示</td> <td>約6,000冊の歴史・文化関係の図書、パソコンによる館蔵資料や歴史に関する情報検索、ビデオライブラリー</td> <td>大型映像で歴史的な出来事や寺院・民俗芸術・城など、県内の多彩な文化風土を紹介するシアター</td> <td>昔風の民家を再現。また、十二単や甲冑などの着付体験(季節ごとにその時期の風物詩を音と資料で紹介)</td> <td>歴博が所蔵する美術・生活文化・歴史・城郭等の各種資料を3か月毎に展示替</td> </tr> <tr> <th>姫路城と城下町</th> <th>ひょうごの祭り</th> <th>こどもはくぶつかん</th> <th>館蔵品展示スペース</th> <th>ミュージアム・パフォーマンス</th> </tr> <tr> <td>姫路城天守の内部をモチーフとした展示空間で、城の歴史、姫路城と城下町の歴史を紹介。国内の現存12天守を模型で展示</td> <td>「灘のけんか祭り」松原屋台、「魚吹八幡神社秋祭り」垣内檀尻などを現物と映像・音響により展示</td> <td>「入江コレクション」を中心に、江戸時代からの子どものおもちゃ・本・娯楽などを紹介</td> <td>模型・絵巻写真により、大名行列の様子を紹介</td> <td>歴史博物館のスタッフが歴史や文化を解説(土曜日午後、日曜日午前・午後)に各1回</td> </tr> </tbody> </table>												ひょうごのあゆみ	ひょうごライブラリー	パーチャル歴史工房	みんなの家	歴史工房	「国宝建築探訪」「源平合戦」など、兵庫の歴史の大きな流れを発見していくテーマ展示	約6,000冊の歴史・文化関係の図書、パソコンによる館蔵資料や歴史に関する情報検索、ビデオライブラリー	大型映像で歴史的な出来事や寺院・民俗芸術・城など、県内の多彩な文化風土を紹介するシアター	昔風の民家を再現。また、十二単や甲冑などの着付体験(季節ごとにその時期の風物詩を音と資料で紹介)	歴博が所蔵する美術・生活文化・歴史・城郭等の各種資料を3か月毎に展示替	姫路城と城下町	ひょうごの祭り	こどもはくぶつかん	館蔵品展示スペース	ミュージアム・パフォーマンス	姫路城天守の内部をモチーフとした展示空間で、城の歴史、姫路城と城下町の歴史を紹介。国内の現存12天守を模型で展示	「灘のけんか祭り」松原屋台、「魚吹八幡神社秋祭り」垣内檀尻などを現物と映像・音響により展示	「入江コレクション」を中心に、江戸時代からの子どものおもちゃ・本・娯楽などを紹介	模型・絵巻写真により、大名行列の様子を紹介	歴史博物館のスタッフが歴史や文化を解説(土曜日午後、日曜日午前・午後)に各1回
ひょうごのあゆみ	ひょうごライブラリー	パーチャル歴史工房	みんなの家	歴史工房																												
「国宝建築探訪」「源平合戦」など、兵庫の歴史の大きな流れを発見していくテーマ展示	約6,000冊の歴史・文化関係の図書、パソコンによる館蔵資料や歴史に関する情報検索、ビデオライブラリー	大型映像で歴史的な出来事や寺院・民俗芸術・城など、県内の多彩な文化風土を紹介するシアター	昔風の民家を再現。また、十二単や甲冑などの着付体験(季節ごとにその時期の風物詩を音と資料で紹介)	歴博が所蔵する美術・生活文化・歴史・城郭等の各種資料を3か月毎に展示替																												
姫路城と城下町	ひょうごの祭り	こどもはくぶつかん	館蔵品展示スペース	ミュージアム・パフォーマンス																												
姫路城天守の内部をモチーフとした展示空間で、城の歴史、姫路城と城下町の歴史を紹介。国内の現存12天守を模型で展示	「灘のけんか祭り」松原屋台、「魚吹八幡神社秋祭り」垣内檀尻などを現物と映像・音響により展示	「入江コレクション」を中心に、江戸時代からの子どものおもちゃ・本・娯楽などを紹介	模型・絵巻写真により、大名行列の様子を紹介	歴史博物館のスタッフが歴史や文化を解説(土曜日午後、日曜日午前・午後)に各1回																												

# 2019年度 県立考古博物館展覧会等計画

区分	2019年									2020年						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
特別展・企画展・連携館	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>〔特別展〕</b> <b>縄文土器とその世界</b> <b>-兵庫の1万年-</b> 4月20日(土)～6月23日(日) (57日間)</p> <p>縄文土器は1万年以上にわたって作り続けられ、その造形は地域や時期によって大きく異なります。形の変化は遺跡の年代決定の決め手になると同時に縄文時代の人々の精神世界を色濃く反映しています。今回の展示では縄文文化を代表する火焔型土器や重要文化財の注口土器、さらに特殊な眼鏡を掛けたような遮光器土偶などと、県内の遺跡から厳選した約250点の縄文土器や土偶などから、縄文の世界</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>〔企画展〕</b> <b>宍岐の古代文化</b> <b>-海をめぐる生業と交流-</b> 7月20日(土)～9月1日(日) (38日間)</p> <p>古くから大陸との海上交通の要衝、交流の拠点として重要な役割を果たしてきた宍岐島(長崎県)の古代文化を紹介するとともに、兵庫県内から出土した考古資料も加えて、海を基盤に生活を営んだ人々の生業と交流について展示します。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>〔特別展〕</b> <b>埴輪の世界</b> <b>-埴輪から古墳を読みとく-</b> 10月5日(土)～12月1日(日) (50日間)</p> <p>古墳の墳丘に並べられ、器台や壺、家、器財、人物などを模した土製品である埴輪は、その多彩な姿で当時の人々の考え方や生活の様子を現在に伝えています。但馬地域最大の前方後円墳である池田古墳の発掘調査では、水鳥形埴輪をはじめ家形埴輪、船形埴輪などの具体的な配置状況が明らかになり、それぞれの役割を推測できるようになりました。本展では、出土品が国の重要文化財に指定されたことを記念して池田古墳の発掘成果を中心に県内外の遺跡から出土した埴輪を展示し形態</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>〔企画展〕</b> <b>ひょうごの遺跡2020</b> <b>-調査研究速報-</b> 1月18日(土)～3月15日(日) (50日間)</p> <p>兵庫県が実施した発掘調査と出土品整理から、最新の調査調査成果を一堂に公開します。平成30年度刊行の発掘調査報告書に掲載した遺跡と、平成31年度に発掘調査を行なった遺跡から、選りすぐりの資料をご覧いただきます。</p> </div> </div>															
体験イベント	<p style="text-align: center;"><b>竪穴住居復元プロジェクト</b> 4月～2020年3月 (原則第2土曜日、第4土曜日の翌日曜日)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                 ゴールデンウィークイベント「体感!縄文時代」 5月3日(金祝)             </td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                 特別展関連ものづくり講座 6月16日(土)、6月16日(日)、6月22日             </td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                 考古博DE夏まつり 7月27日(土) 古代を家を作ってあそぼう 8月12日(月祝)             </td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                 特別展関連水鳥形埴輪づくり 10月6日(日)             </td> </tr> </table> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">大中遺跡まつり 11月2日(土祝) 【播磨町共催】</p>												ゴールデンウィークイベント「体感!縄文時代」 5月3日(金祝)	特別展関連ものづくり講座 6月16日(土)、6月16日(日)、6月22日	考古博DE夏まつり 7月27日(土) 古代を家を作ってあそぼう 8月12日(月祝)	特別展関連水鳥形埴輪づくり 10月6日(日)
ゴールデンウィークイベント「体感!縄文時代」 5月3日(金祝)	特別展関連ものづくり講座 6月16日(土)、6月16日(日)、6月22日	考古博DE夏まつり 7月27日(土) 古代を家を作ってあそぼう 8月12日(月祝)	特別展関連水鳥形埴輪づくり 10月6日(日)													
講座	<p>特別展に関連する講演会・遺跡ウォーク：「縄文土器とその世界」関連講演会(5回)、縄文遺跡と日本遺産を巡る-福本遺跡と銀の馬車道-(1回)、「埴輪の世界」関連講演会(2回)</p> <p>兵庫考古学研究最前線：館長・学芸員等が研究成果を発表(年8回) <span style="float: right;">発掘調査速報会 3/8(日)</span></p> <p>教員セミナー：古代の織物を作ろう(8/9)</p>															
体験学習	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                 組ひもづくり：ミサンガ製作、基礎講座(年各1回)                  まが玉づくり：ガラスや琥珀でまが玉をつくる(年3回)                  バックヤード見学ツアー：普段入れない考古学の研究現場を案内(年4回)                  はじめての土器づくり(7/21)                  漢倭奴国王印づくり(8/4)             </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;">                 古代の技に学ぶかごづくり ～クラフト～(8/18)、～天然つる～(11/17)                  古代の織りかたでポシェットづくり(12/15)                  チャレンジ!銅鏡づくり(1/19)                  古代のガラスアクセサリーづくり(2/2)             </td> </tr> </table>												組ひもづくり：ミサンガ製作、基礎講座(年各1回) まが玉づくり：ガラスや琥珀でまが玉をつくる(年3回) バックヤード見学ツアー：普段入れない考古学の研究現場を案内(年4回) はじめての土器づくり(7/21) 漢倭奴国王印づくり(8/4)	古代の技に学ぶかごづくり ～クラフト～(8/18)、～天然つる～(11/17) 古代の織りかたでポシェットづくり(12/15) チャレンジ!銅鏡づくり(1/19) 古代のガラスアクセサリーづくり(2/2)		
組ひもづくり：ミサンガ製作、基礎講座(年各1回) まが玉づくり：ガラスや琥珀でまが玉をつくる(年3回) バックヤード見学ツアー：普段入れない考古学の研究現場を案内(年4回) はじめての土器づくり(7/21) 漢倭奴国王印づくり(8/4)	古代の技に学ぶかごづくり ～クラフト～(8/18)、～天然つる～(11/17) 古代の織りかたでポシェットづくり(12/15) チャレンジ!銅鏡づくり(1/19) 古代のガラスアクセサリーづくり(2/2)															
常設展	<p style="text-align: center;"><b>人・環境・社会・交流の4つのテーマで構成</b></p> <p style="text-align: center;"> <span>〔人〕私たちの由来</span>    <span>〔環境〕自然とともに</span>  <span>〔社会〕国のなりたち</span>    <span>〔交流〕みち・であい過去から未来へ</span> </p> <p>展示室内には県内各地の遺跡から出土した考古資料やジオラマ・模型・映像など多様な展示手法を配し、わかりやすく兵庫県の考古の謎を解き明かす。</p> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>〔発掘ひろば〕</b> 自ら体験することによって発掘の楽しさ、謎解きのおもしろさ、考古学の楽しさを実感できる展示。幼児から大人まで自然に考古学に親しむ。</p> </div>															

## 2019年度 県立考古博物館加西分館「古代鏡展示館」展覧会等計画

区分	2019年									2020年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
特別展・企画展・連携館	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〔企画展〕</p> <p style="text-align: center;"><b>発掘された銅鏡 兵庫に伝わった鏡と文化</b></p> <p style="text-align: center;">3月15日(金)～9月10日(火) (160日間)</p> <p>日本における鏡の歴史は、弥生時代に始まります。当時、中国からもたらされた銅鏡は権力の象徴として用いられました。兵庫県内の遺跡からも中国鏡やその影響を受けて制作された銅鏡が数多く発見されています。 本展では、県内出土の銅鏡と当館が所蔵する古代中国鏡を比較展示し、古代の日本と中国の人々の鏡に対する想いを画像の変遷などからたどります。</p> </div>									<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〔企画展〕</p> <p style="text-align: center;"><b>龍 翔ける！</b></p> <p style="text-align: center;">9月13日(金)～3月10日(火) (146日間)</p> <p>龍は人間が作り出した架空の生き物です。その姿は蛇のように長い身に四脚と角やひげをもち、自在に天空を翔けて雨や雷を起こすとされています。 その姿や名は時代とともに変化します。自然の恩恵をもたらし、東の方位の守り神や皇帝の象徴となりますが、時として災いを起こす存在でもあり、尊貴で聖なる霊獣として畏怖されてきました。 今回の展示では、千石コレクションの銅鏡や祭礼の器に描かれた飛翔する龍の勇姿を追います。</p> </div>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〔スポット展示〕</p> <p style="text-align: center;"><b>大きな鏡</b></p> <p style="text-align: center;">7月18日(木)～9月10日(火) (48日間)</p> <p>館蔵品の中で最も大きな鏡を展示し、鏡に託された力を紹介します。</p> </div>					<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">〔スポット展示〕</p> <p style="text-align: center;"><b>千支子</b></p> <p style="text-align: center;">1月2日(木)～3月10日(火) (60日間)</p> <p>新年を迎え、子年の干支にちなんだ意匠の鏡を紹介し、併せて干支の成立事情や意味を解説します。</p> </div>						
講座	<p>講演会：連続講座「発掘担当者 鏡を語る」（全5回）（6/1、6/15、7/6、7/20、8/3）、特別解説会（4/7） 「龍 翔ける！」関連講演会（10/26(仮)）</p> <p>考古楽連続講座：古代鏡の楽しみ方（5/18、9/21、11/16、1/18、3/14）、フラワーセンター内遺跡ウォークⅡ（12/14）、考古学の基礎知識(仮)（2/15）</p>											
体験学習	<p>金属で鏡をつくろう(7/27、8/24) チョコレートのお宝鏡をつくろう(1/25、2/8)</p>											
常設展	<p>千石コレクションをガイダンス展示、コレクション展示、画像検索などの常設展示コーナーで展示し、古代中国鏡の文化を紹介。</p>						<p>無料ゾーンでは映像コーナーや体験コーナーで親しみやすい手法で銅鏡に親しむ。</p>					